



関西からのメッセージ集団
朝日 21 関西スクエア 会報

Asahi Kansai Square21

2011.5

No.

134



被災地へのメッセージ

生命あるところ希望あり

池坊 由紀(華道家元池坊次期家元)

激しい被害に遭いながらも、陸前高田に一本だけ松の木が残りました。苦しくとも悲しくとも生命あるところに必ず希望があり、その希望を見出すのは人の生きていこうとする強い意志だと思います。被災された方々の心と街の復興を心よりお祈りしています。

「負の歴史」、必須の読本に

河村 立司(漫画家)

困ったことに歴史は年々歳々美化される。だが、「負の歴史」は天災人災を問わず、都道府県単位の必須な読本にして子々孫々に書き残すべきだ。データを示し対策もこまかく説明しておく、日常の心得になる。

世界から希望の光 続々

黒田 睦子(奈良まちづくりセンター理事)

世界の国と地域から続々と救援隊が救助犬を伴い駆けつけている。国境と民族を超えて、人道支援の想いが熱く伝わってくる。世界からの温かいまなざしと寄り添う心は希望の光。絶望すること勿れ。

被災地の産品を購入

酒野 晶子(天理大学非常勤講師・河内木綿研究家)

自分に何ができるかまだ分からないでいます。とりあえず、被災地の産品(お米や食料品)を意識して購入するようにしています。お米は福島県のお米に変えました。急がないで、私にお手伝いできることを探します。

世界各地で募金活動

園山 土筆(八雲国際演劇祭・芸術監督)

ブルガリアの著名女優ニーナとカナダの有能プロデューサー・エバは、初来日したときから好きになった「日本」のために、母国でチャリティー公演や募金活動をしています。世界の人々が励みたいのです。がんばって!

命大切に地域復興を

竹中 恵美子(大阪市立大学名誉教授)

東日本大震災に遭遇された皆さまの苦難を思うとき、絶句する思いです。福島原発を含め、天災・人災のないまぜになった今回の災害の苦しみを共に分かち合い、命を大切にされた地域復興に向けて、声をあげていきたいと思っています。

平穏な日常、早く戻って

土井 勉(京都大学大学院・安寧の都市ユニット 特定教授)

被災をされた皆様。本当に大変な日々が続いているように思います。一日も早く平穏な日常が戻り、お仕事ができ、普通に学校に通える日が来ることを心からお祈り申し上げます。いけるようになったら、行きます。

日本人のタフさ証明しよう

服部 等作(広島市立大学・芸術学研究科)

チベット各地の寺で日本の平安祈願法要が行われていると知りました。アジア各地の人々は戦後の焦土から立ち直った日本に尊敬の念を抱く。神戸の震災から立ち直った私も応援します。日本人、東北人のタフさを証明しよう。

共に闘い続ける意志を

安田 雪(関西大学教授)

被災地にいない私たちは、過酷な宿命に立ち向かい、敢然と顔をあげ、日々の自分の義務を粛々と果たしておられる、被災地の方々から力と勇気と癒しをいただいています。離れた土地にある私たちは、祈り、応援、努力、そして、この長期的な闘いを共に闘い続ける意志をお届けしたいと思います。

鎮魂と早期の復興を

湯浅 俊彦(立命館大学文学部准教授)

2月、仙台空港を降りて東北大学に講演に向かった。1カ月後、予期せぬ災厄に息をのんだ。鎮魂と早期の復興を強く願う。

(50音順 敬称略)

<編集長インタビューは休みました>

新企画運営委員ご挨拶

関西人 自信と誇りを持つ



栗本 智代さん (大阪ガスエネルギー・文化研究所主席研究員)

「関西から元気を」という年間テーマについて。実は、「関西」と聞いてもピンとこなかった。京都・大阪・神戸をみても、各々全く異なる特徴や魅力を持ち、それが故に、隣の府県と一緒にしてほしくないという思いが各々にあるのか、行政・自治体を筆頭に、情報の共有化や文化交流が非常に少ない。東日本大震災で多方面での課題が抽出される今、まずは関西の中で、地域文化の県(圏)境を意識から取り去り、必要に応じて柔軟に迅速に手を取り合えるような具体策とアクションが求められる。倍増した活力を、東日本へ、あるいは全国・世界へ発信すべき時が来ている。

ところで、人が“わがまち”に対して抱く思い、地域への愛着や誇りは、心の支えとなり生きる力となる。しかし、特に大阪では、マスコミが流すイメージだけが先行し、豊富な歴史や文化があまりに知られていない。長屋街は「古いだけの村」、都心は「趣のある観光名所がない」と“わがまち”を卑下する住民もいる。宝の持ち腐れ状態では、元気が出るはずがない。まずは足元のポテンシャルを見直し、自信とプライドを持つ。そこから地域の賑わい、文化の発信力へとつながっていく。私が展開する「なにわの語りべ活動」やフィールドワークを通して得た知見や視点も、お役に立てば幸いである。

西光さんにスクエア賞

第3回「朝日21関西スクエア賞」の授賞式が4月12日、朝日新聞大阪本社であり、奈良県明日香村教育委員会の主任技師・西光慎治さん(40)＝写真＝に表彰状と副賞10万円が贈られた。西光さんは「明日香村が世界遺産登録に向けて力をあわせて頑張っている時に賞をいただき、うれしいです。今後も全国の皆さんに明日香村の魅力を伝える仕事ができればと思います」と話した。副賞は東日本大震災の義援金として朝日新聞厚生文化事業団に寄付した。

西光さんは昨年9月、発掘調査した明日香村の牽牛子塚古墳(7世紀後半)が当時の天皇家に特有の八角形墳であることを突き止め、天智・天武両天皇の母である斉明天皇の陵墓とほぼ決定づける成果をあげた。



「天災」か? 「人災」か?

戸塚 悦朗 (国際人権法政策研究所事務局長)



な人命が失われ、原発の爆発事故まで引き起こした今回の大震災による被害は、国の無策による「人災」と言わざるを得ません。

今回の東日本大震災。国は、「想定外」の「天災」だったとしていますが、果たしてそうでしょうか。

国は、この点を深く反省し、地震・津波・原発によるすべての被害を国の責任で補償し、納税者が公平に負担することを提案します。

10年前に箕浦幸治・東北大学教授(地質学・古生物学専攻)らによる警告が東北大学広報誌(2001年夏号)によって出版されていたのです。超巨大津波が来襲したという貞観地震(869年)に関する古文書の記載が真実であることを、地質学的研究によって確認し、これを含め3回の超巨大津波がほぼ1000年サイクルで起こっていたことを発見したのです。

国は、超巨大地震・津波の来襲を想定し、直ちに有効な被害防止対策をとる責務がありました。ところが、国が重い腰を上げて、耐震指針を全面改定し、原発の再チェックをはじめ対策を検討し出したのは、警告から5年後の2006年でした(朝日新聞3月25日付科学面)。対策が後手にまわり、原発を含め超巨大津波からの防御対策ができていなかったのです。

果たして、貞観地震から1142年後に、警告どおり超巨大地震による超巨大津波が、東北地方を襲ったのです。膨大

福祉用トイレ設置に思う

伊永 勉 (日本セイフティー災害研究所)

東日本大震災で、政府の要請で要援護者用トイレの設置のため、宮城県東松島市に行きました。身体の不自由な被災者のために、水不要で臭いを密封する室内用トイレです。3月13日に自衛隊が110台を運び込んだのですが、集積地に積んだままで、3週間後ようやく日赤医療チームの手によって、各地の避難所への配置が始まりました。残念なことに、自治体では福祉用トイレを知らないらしく、即座に対応できないという姿をまた見てしまいました。



出版紹介

『88人畅谈学地道的日语』(『88人が語る日本語と中国語の特徴』)

京都外国語大学教授の彭飛(ボンフェイ)さんから

中国人が経験した日本語失敗談・体験談を企画・編集。大学院院生、研究者、企業家、作家や日本人教師ら88人(関西在住者70人)が原稿104本を執筆。3分の2が中国語で3分の1が日本語だ。日本語を学ぶ中国人が対象だが、中国語を学ぶ日本人にも役立つ。中国大連理工大学出版社。中国書籍専門店・東方書店関西支社(電話06-6337-4760)で手に入る。冒頭に東日本大震災の犠牲者を追悼する特集を組んだ。



会と催し

第9回おたまじゃくし音楽祭

音楽企画あべぶらん代表の阿部和子さんから

- 5月14日(土)午後0時半から、大阪国際交流センター(大阪市天王寺区上本町8丁目/電話06-6772-5931)で、子どもたち、障害者らの合唱グループ23団体が参加。
- 入場無料(会場ロビーで東日本大震災救援募金活動を実施)
- 問い合わせ 同合唱祭実行委員会(06-6635-0049)

日本居住福祉学会2011年度総会行事

同学会会長の早川和男さんから

- 5月14日(土)、15日(日)に大阪市大高原記念館学友会ホール(大阪市住吉区)で。
- 14日午前 特別シンポジウムⅠ「韓国の居住福祉政策の展開と実践」 午後 特別シンポジウムⅡ「関西圏居住福祉産業円卓会議」
- 15日 日本居住福祉学会総会/研究発表会5題(13時30分~15時30分) 特別セッション「居住の権利は震災を人災に転化



しないインフラである」

- 参加費:3000円/問い合わせ:全泓奎・事務局長(電話 06-6605-3447)

農産物直売所の意義と今後の課題

兵庫農漁村社会研究所代表の保田茂さんから

- 5月20日(金)午後1時から、神戸市勤労会館(神戸市中央区雲井通5-1-2)で。
- 報告(1)「農産物直売所・パスカルさんだの成果と今後の課題」
- 報告(2)「JA兵庫西管内の直売所の展開と課題」
- 報告(3)「生産者からみた農産物直売所」
- 主催・問い合わせ:兵庫農漁村社会研究所(電話 078-241-4822)

第19回環境自治体会議特別セッション

文化ジャーナリストの白鳥正夫さんから

- 5月25日午後6時、愛媛県新居浜市の市民文化センターで。
- 「別子銅山から学ぶ『環境と産業の調和』」をテーマに25日から3日間開かれる環境自治体会議の特別セッション。コーディネーター 白鳥正夫氏。入場無料
- 閉山40年の別子銅山の山すそにある新居浜市は、産業遺産を活かした再生事業に取り組んでいる。銅山と環境との関わりを考える。
- 問い合わせ 新居浜市役所環境保全課(0897-65-1512)

邦楽さろん「なにわの夢」

上方文化評論家の福井栄一さんから

- 5月28日(土)午後2時開演、箏三絃なかにし(兵庫県西宮市甲子園口2-1-29)で
- (1)「浪花(大坂)」をモチーフにした地歌3曲『浪花の四季』『浪花十二月』『町づくし』 (2)ミニ講演『浪花のことは 夢のまた夢』(講師:上方文化評論家 福井栄一)
- 入場料:2千円(当日会場入口にて精算/要予約・先着30人)
- 申し込み・問い合わせ:箏三絃なかにし(電話0798-67-1719)

スケッチかんさい

被災地を想う

想像を絶する東日本大震災。これは地球の怒りだと思った。人間さまは消費社会にどっぷり浸かって、馬鹿騒ぎをしているが、地球は迷惑しているのだ!と叫んでいるように思えた。

16年前の阪神淡路大震災のとき。神戸・垂水にある職場にどんな経路で出社できるか考えた末、海上輸送に着目。JR弁天町経由で大阪港へ駆け込んだ。臨時の水上高速艇CAT便で、あっという間に着いた。上陸した神戸港・メリケン波止場の岸壁は大きく崩れ、ガードレールはひん曲がり、地震の揺れのすごさを感じた。

いま、その地震で崩れたままの状態を保存している震災メモリアルパーク。岸壁や復興した神戸港をスケッチしながら、遠く離れた被災地を思い、東北・関東の復旧と復興、そして支援の輪の広がりを祈った。

あつた ちかよし
熱田 親憲

神戸市中央区波止場町

ライブの醍醐味

中川 恒（「声」編集長）



先日、大学に合格した娘へのお祝いで約束していた音楽ライブと一緒に出かけました。行き先は神戸のワールド記念ホール。米国の人気歌手ニーヨの公演です。東日本大震災の影響で海外の歌手らの公演中止が相次ぐなか開催が危ぶまれましたが、6千人収容できるホールはすでに満員でした。

ステージの大型スクリーンに「shall we begin」の文字。黒のスーツにトレードマークの中折れ帽をかぶったニーヨが登場すると、大歓声に包まれました。最新アルバムなどから代表曲を次々に披露。女性ダンサーを相手に体をからませ、男性ダンサーらを従えて一糸乱れぬ群舞をみせる切れのある動きは、旧大阪球場で見た全盛期のマイケル・ジャクソンをほうふつさせます。

曲の合間に、ニーヨが片言の日本語で「ガンバッテ、ニッポン」「ニッポン、アイシテル」と呼びかけると、会場のボルテージは一気に上昇。約1時間半、日本語でメッセージを送り続けた姿からは、あえてライブを中止せず急きょ作ったチャリティーグッズを携えて来た彼の、被災した人々や被災地への思いが伝わってきました。

ライブに通い始めたのは高校時代。松山千春が最初です。苦手な演歌のほかは幅広く聴き、約30年で少なくとも200回を超す公演に足を運びました。魅力的な声や華麗なダン

スだけでなく、ステージで歌手や演奏者がかいま見せる人間性や意外なこだわりを知るのも醍醐味の一つです。

シンガポールの人気歌手ディック・リーは裕福な中国家庭に生まれましたが、中国語がしゃべれません。自らのアイデンティティーをテーマに、アジアの民謡と欧米の音楽スタイルを融合させ、アルバム「マッド・チャイナマン」(1989年)を制作。それを機に、大阪のIMPホールで公演がありました。

ノリの良い曲で盛り上がりつつあったそのとき、観客の何人かが「イエーイ」と叫びます。ディックが突然、音楽を中断させました。

「君たちは日本人だ」。英語で語り始めます。

「なのに、なぜ英語なんだ」

「日本人なら『はい』って言おう」……

その後、会場が「はい」の合唱で埋め尽くされたのは言うまでもありません。ライブの真の面白さを知った初めての体験でした。

仕事柄、せっかくチケットを取っても事件、事故が起こって破り捨てる。そんなことがしばしばですが、思わぬ「出会い」を求めて懲りずに買ってしまうのです。

(なかがわ・ひさし)

事務局から



▽大阪に赴任してきた約1年前。堂島川沿いを自宅から会社まで。そして会社から取材先まで。ゆっくり歩きながら「いい街だな」と気持ちよくなったことを思い出します。また、その感覚が戻ってきました。今振り返ると、1年目は楽しかったとはいえ、やはり楽しみ方が足りなかったなと感じます。とにかくバタバタしてばかりで、まだまだ関西の奥深さに触れていない自分に反省することしきり。さて、どうしてやろうかと思案していたところに、関西スクエアの幹事を仰せつかりました。今までにお会いしたこともない分野の方々の話を聞く機会にも恵まれ、関西人の機微に触れるには、まさに役得とはこのこと。2年目の大阪暮らしが楽しくなりそうです。(安川)

▽5月の人事異動で、2年間務めました関西スクエア幹事の担当を離れることになりました。会員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。幹事就任の時、この欄で囲碁のことにふれましたが、わずか2年で関西の囲碁界は大きく動きました。若き名人が誕生し、さらに碁聖、天元というタイトルも関西の棋士が取りました。七大タイトルのうち三つが関西にあり、あと一つ加われば過半数です。タイトルを独占していた東京との勢力図が逆転しそうな勢いです。関西から日本を元気に。大震災で重苦しい雰囲気にも包まれている今、囲碁界のように、関西が日本全体を盛り上げる。それだけの力が関西にはあると信じています。(深松)

▽今年もお花見三昧の週末を過ごしました。夙川公園、吉野山、嵐山など様々な桜の名所を訪れましたが、一番印象に残っているのは天龍寺です。ミツバツツジや桃など桜以外の花もたくさん咲いており、すっかり春の色に染まっていました。桜を観ると、前向きな気持ちになります。入学式などを思い出すからでしょうか。門をくぐると満開の桜が出迎えてくれ「どう花を咲かせるかは自分次第だ」と決意を新たに、新生活に臨みました。東北でも桜が咲き、被災地の方々がお花見をされている様子がテレビに映っていました。笑顔があふれており、幾分ホッとしました。東北は日本でも有数の桜の名所です。これからどんな花を咲かせることができるのか。それは私たち、一人ひとりの手にかかっています。(園)

朝日21関西スクエア 会報 No.134

●スタッフ

富永伸夫、浅野稔、安川嘉泰、深松真司、天野剛志、橋本正人、木村俊介、園真規子

●事務局

〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞大阪本社内
TEL 06-6231-0131 (内線5048) FAX 06-6443-4431
E-mail square.k@asahi.com (PDF会報の希望はこちらへ)
URL <http://www.asahi.com/kansaisq/>